

2023年11月15日

日本学校教育学会会員 各位

機関誌編集委員会委員長  
安藤 雅之

## 機関誌『学校教育研究』第39号の編集方針及び投稿論文等の募集について

会員各位におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

さて、過日機関誌編集委員会におきまして機関誌『学校教育研究』第39号の編集方針等が決定されました。つきましては、会員の皆様に編集方針をお知らせいたします。あわせて投稿論文等の募集についてご案内いたしますので、【別紙①投稿のお願い】、【別紙②投稿要項】、【別紙③投稿チェックリスト】等を参照いただき、積極的にご応募下さいますようお願いいたします。また、本号におきましても、「実践研究ノート」の募集を行いますので、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、大学、教職大学院等での教育実践等について意欲的な投稿をいただきますよう、ご案内申し上げます。

なお、投稿期限の厳守はもとよりでございますが、査読等の機関誌編集作業は例年、厳しい日程で行っておりますので、諸期限につきましても厳守いただきますよう、お願い申し上げます。

記

### I 機関誌『学校教育研究』第39号の編集方針

#### 1 特集テーマとその趣旨及び論究の視点

〔特集テーマ〕

転換期の学校教育②：コロナ後の教育や学習の在り方  
— 『デジタル』と『リアル』の最適な組合せの観点から —

〔趣旨及び論究の視点〕

本号の特集テーマの設定は、転換期にある学校教育の方向性を明らかにし、その限界と乗り越えるべき観点を明示することを目的としています。

新型コロナウイルス感染症によるパンデミックが始まって以来、子どもたちのリアルな体験は大きな制約を受けてきました。学校行事を中止や延期し、施設見学や外部講師による出前授業や講演会などを見送ってきた学校も少なくありません。その一方で、子どもたちの日常に組み込まれてきているのがデジタル体験です。小・中学生に1人1台の端末を整備する国の「GIGAスクール構想」が完了し、動画や画像に対応するデジタル教材も豊かになってきました。教室では、コンピュータを使って勉強をするスタイルが定着しつつあります。また現地に行けない代わりに、修学旅行先の地域の学校とビデオメッセージを送り合ったり、探究の時間に生徒がオンラインで取材したりするなど、デジタルを生かして子どもの体験を保障しようという実践も数多く生まれました。

このような中、文部科学省は2022年2月、今後の初等中等教育段階の教育政策の方針を示した「教育進化のための改革ビジョン」を公表しました。「誰一人取り残さず個々の可能性を最大限に引き出す教育」、「教職員が安心して本務に集中できる環境」を基本理念として、四つの柱を掲げましたが、その最初に「『リアル』×『デジタル』の最適な組合せによる価値創造的な学びの推進」が挙げられました。当時文部科学大臣であった末松信介氏は記者会見で、デジタル時代だからこそ実体験して学ぶことの価値を再認識し、学校内外の体験活動を充実させるために「経済団体とも直接対話し、企業やNPOを学校の活動に本格的に巻き込む大きな流れを作る」という決意を述べています。一方で学校を核とする教育システムに、異年齢交流やボランティア、職業体験、介護体験、人と関わる機会の拡充を組み込むことも重要だと強調しました。

「転換期の学校教育」において、「教育進化」への改革の大きな視点として「リアル」と「デジタル」を如何に学校教育活動へ組み込み、そして組み合わせ、価値創造的な学びを創り出していけるかが今後の大きな課題であると言えるでしょう。

そこで本特集においては大きく三つの視点からこのテーマを論及し、課題解決に向けての一石を投じることとしました。すなわち第一の視点として、「主体的、対話的で深い学び」や探究学習等の推進の観点から、改めて学校教育における身体性あるいは体験の重要性や必要性を考察します。

第二の視点は、「教育進化」を実現するために「リアル」と「デジタル」を学校教育へどのように組み込んだり組み合わせたりすることができるのかを先進的・先導的な取り組み事例等から考察します。

そして第三の視点として、「価値創造的な学び」の実現に向けた新たな教育方法に関する課題や方向性を考察することにしました。

以上の三つの視点を基に、機関誌『学校教育研究』第39号における本特集テーマにかかわる論文を以下の6つの観点から位置づけ、特集テーマへのアプローチを行うことにしました。

- ①教育における「身体性」（体験）の必要性・重要性に関する論考
- ②「リアル」だったものを「デジタル」に拡張し、より強い体験へ拡充する取組に関する論考
- ③「デジタル」で完結していたものを「リアル」に定着させる取組に関する論考
- ④「リアル」×「デジタル」の最適な組み合わせによる学びに関する論考
- ⑤「価値創造的な学び」の本質に関する論考
- ⑥「リアル」×「デジタル」の最適な組み合わせによる価値創造的な学びに向けた課題と方向性に関する論考

\*今期編集委員会としては、第38号から第40号まで3年間にわたり「転換期の学校教育」に関わる内容を探求していく方針です。学校教育の実践に携わる会員には、ぜひ、「転換期の学校教育」に関する実践を追求し、本学会での口頭発表、論文投稿に繋げていただけますと幸いです。

## 2 機関誌『学校教育研究』第38号の構成

- 第1部 特集：特集テーマに沿う各領域の専門家への依頼論文
- 第2部 自由研究論文
- 第3部 実践的研究論文
- 第4部 実践研究ノート
- 第5部 第37回研究大会の概要
- その他 研究余滴、図書紹介など

## II 自由研究論文等への応募ご協力をお願い

詳細は、【別紙①投稿のお願い】、【別紙②投稿要項】をご参照下さい。

なお、投稿は、郵送と電子メールの両方で提出してください。郵送では、①投稿申込書、②原稿（プリントアウト1部）、③「投稿に際してのチェックリスト」の3点を同封してください。電子メールでは、①投稿申込書、②原稿の2点のPDFファイルを添付し、送信してください。（電子メールでの添付・送信が困難な場合は、編集委員会まで問い合わせること。）

**なお、第38号から投稿要項が改定されております。必ず【別紙②投稿要項】を確認したうえで投稿をお願い申し上げます。**